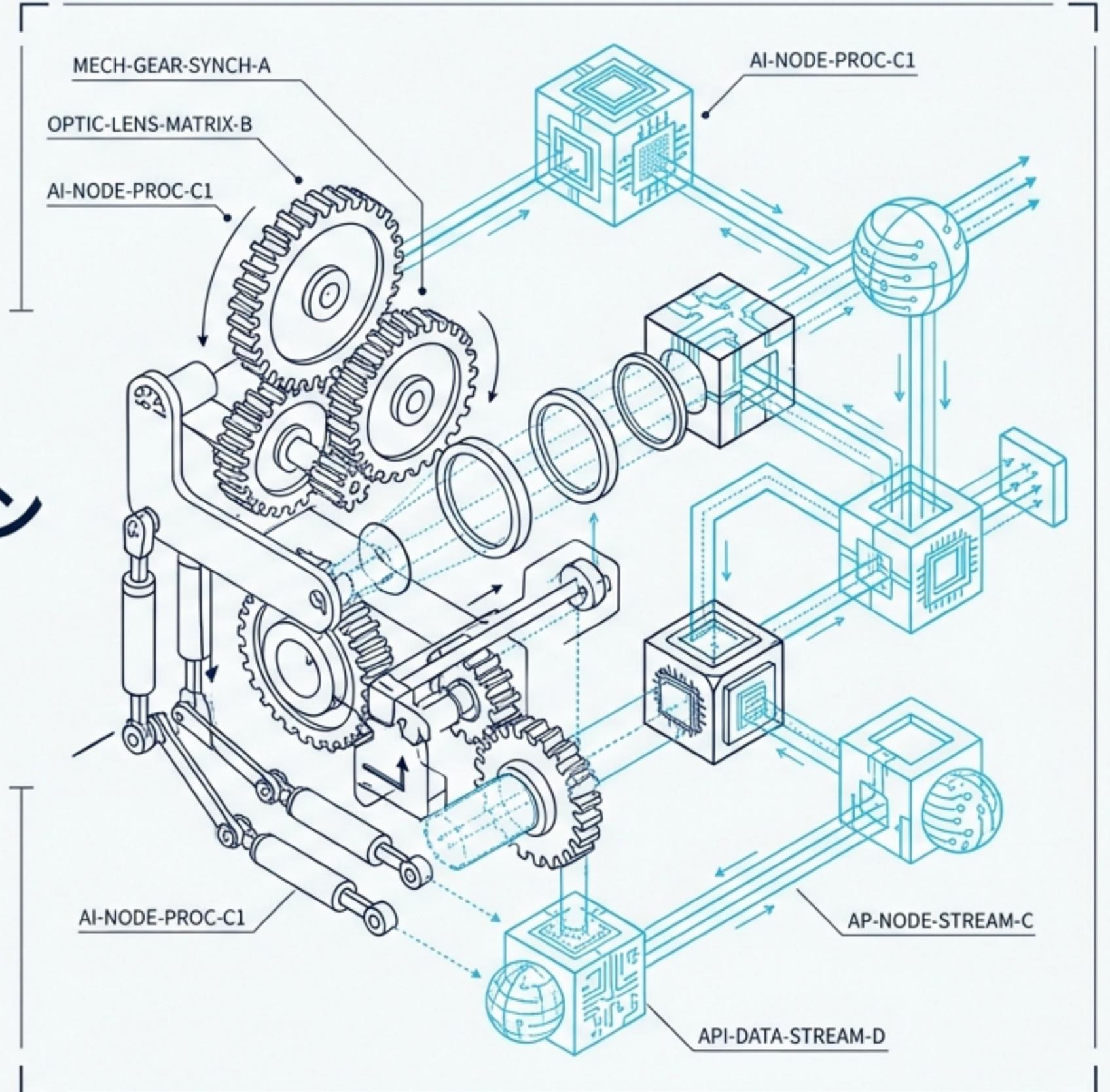


Manusを活用した知財業務の 高度化とセーフティ・バイ・デザイン

調査・ドラフト生成の「生産ライン化」と、
機密・証拠保全を両立する統合アーキテクチャ



全面自動化からの脱却：初期工程の「生産ライン化」



1. 広範な収集と構造化

「Wide Research」による並列マルチエージェント処理で、大量の先行技術や特許文献をコンテキスト制限なく一括処理。



MULTI-AGENT PROCESSING

CONTEXT UNBOUNDED



2. 致命的リスクの排除

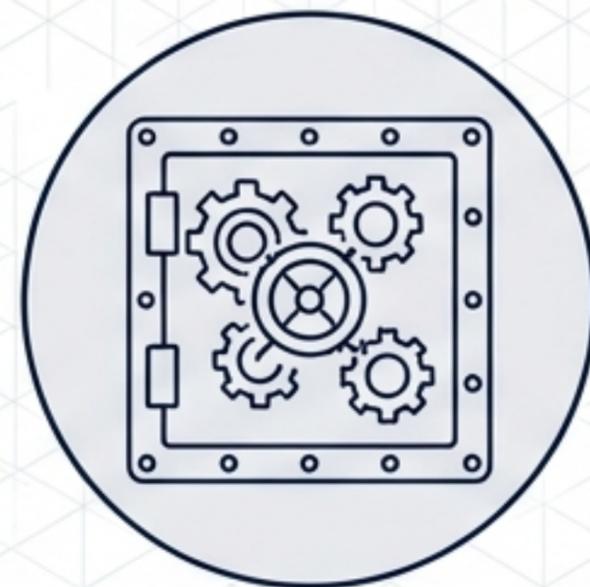
ハルシネーション、機密漏洩、証拠性喪失といった知財特有のリスクを「運用」ではなく「システム設計 (Safety by Design)」で物理的に遮断。

HALLUCINATION

DATA LEAKAGE

PHYSICAL BLOCKADE

SAFETY BY DESIGN



3. 自社完結型のガバナンス

高リスクな最終判断は専門家が担い、監査ログ・証跡はManus側ではなく自社DMS (文書管理システム)で完結させるアーキテクチャ。



HUMAN EXPERT REVIEW



INTERNAL DMS
(AUDIT LOG)

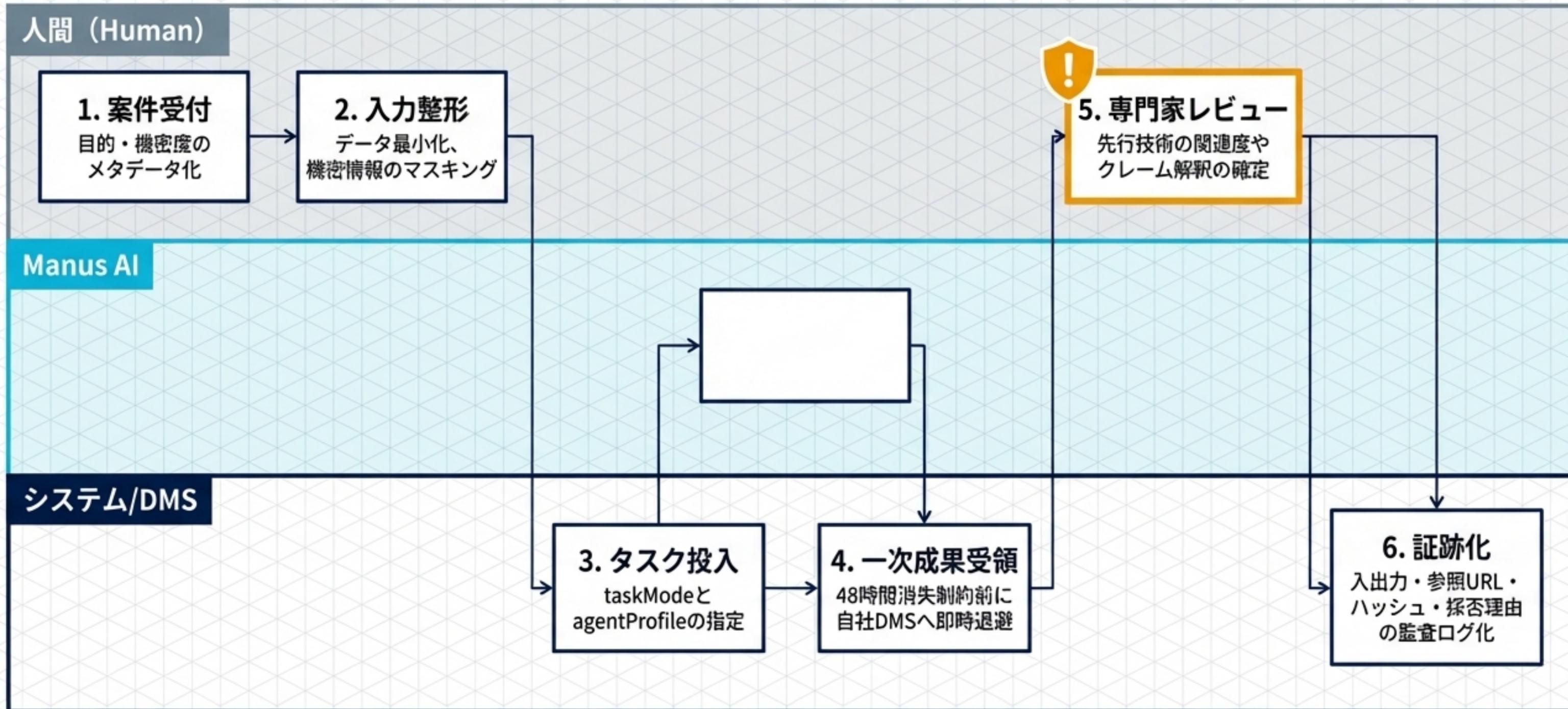
知財業務における適用領域とリスク・ヒートマップ

タスク	Manusの役割	人間の役割	機密度/リスク
特許調査（技術動向）	候補収集・表構造化	調査式確定・精読	Low
先行技術調査	クエリ生成・候補要約	関連度判断・根拠検証	Mid
要約（社内共有）	長文短縮・比較表	誤り修正・開示判断	Mid
特許明細書作成	構成案・請求項骨子	新規性・法的適否判断	High
侵害リスク分析（FTO）	クレーム分解・仮説	製品照合・法的評価	Critical



FTOや明細書作成などの高機密・高リスク領域は、誤情報対策とデータ最小化が必須は。調査・要約タスクから導入を開始することが最適解。

標準化されたAI協働ワークフロー（案件単位の6ステップ）

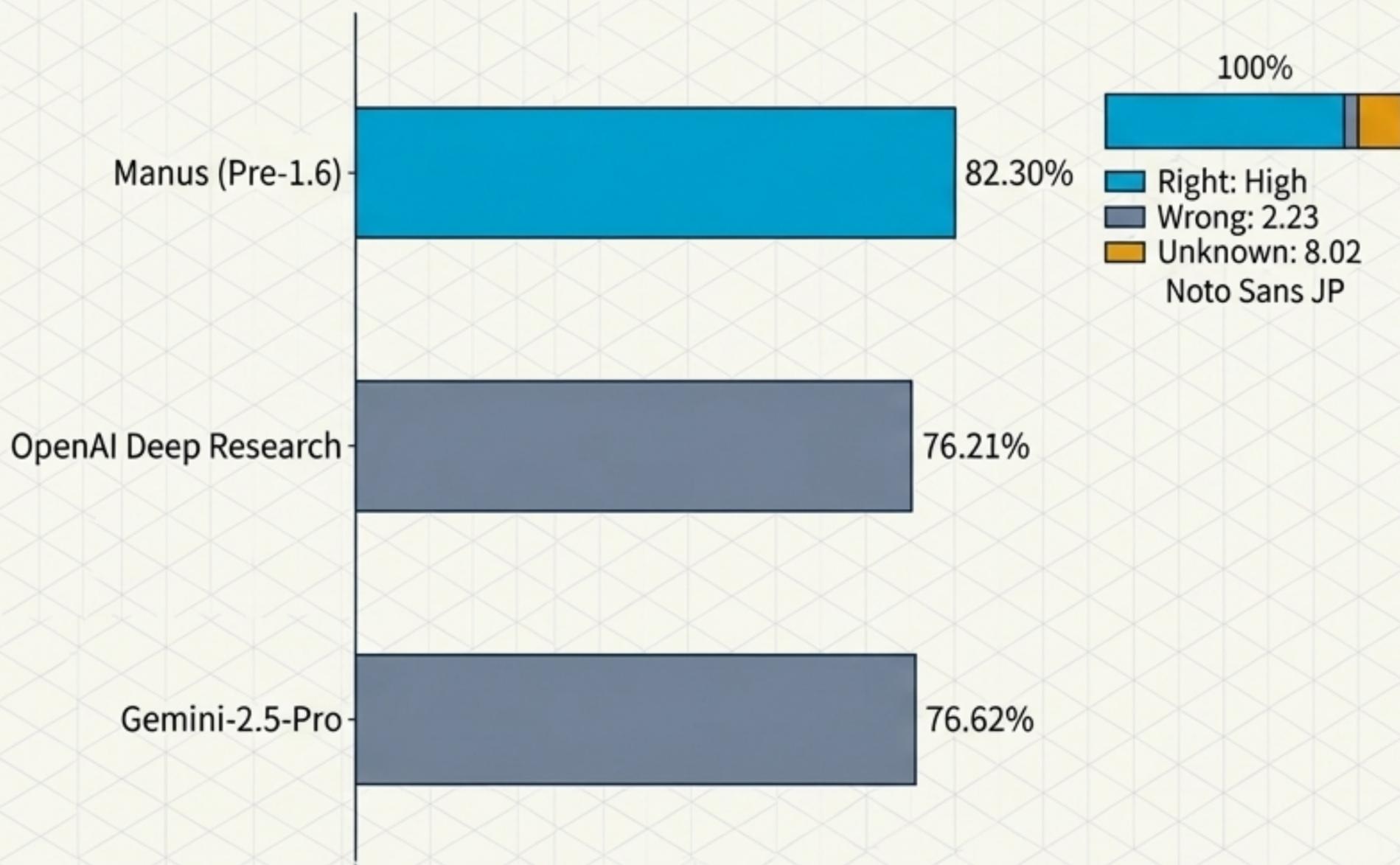


コア・エンジン：Manus 1.6の機能特性と知財実装における致命的制約

Manus 1.6 機能	知財への適用例（利点）	実装・運用の勘所（制約・リスク）
Wide Research	並列エージェントによる大量先行技術の一括要約	自動トリガー制御。サブタスク上限50クレジット。
Max エージェント	多段推論能力（侵害分析等の論点整理に活用）	内部指標依存。自社PoCでのKPI検証が必須。
Tasks API	agentProfile等の指定によるバッチ・対話型統合	共有リンク（第三者閲覧リスク）の意図せぬ生成に注意。
ファイル保持	一時的な処理環境の提供	アップロード後48時間で自動削除。 事前署名URLは短時間で失効。自社退避必須。
Team可視性	チーム内でのタスク共有	Team Ownerによる全タスク閲覧。 Owner権限の分離（法務/情シス）が必須。

品質評価：高い「事実性」と Unknown に対する運用ルール

DeepResearchEval Factuality Ratio

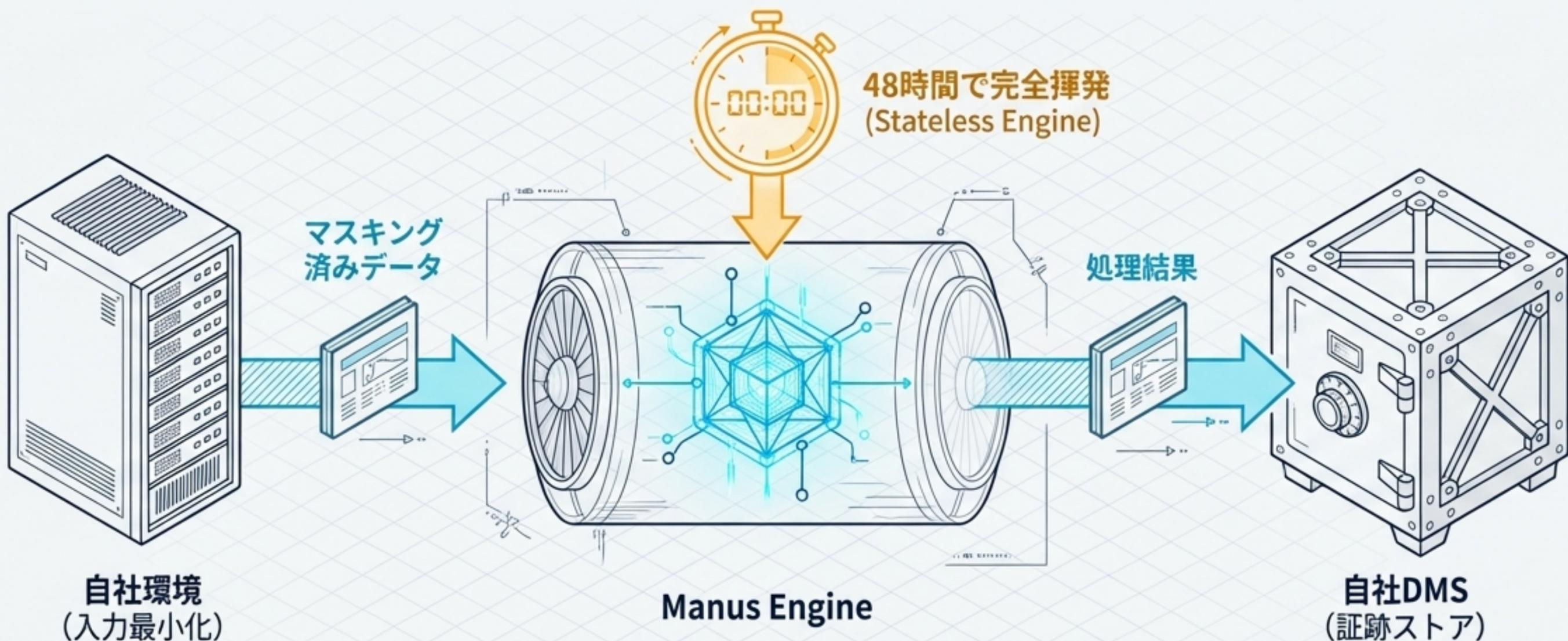


運用上の必須要件

インサイト：虚偽（Wrong）の抑制には強いが、**根拠不十分（Unknown）**は確実に発生する。

対策：知財実務ではUnknownは致命傷。出力テンプレートにおいて「**引用元ID（公報番号/条文番号）**」の出力を必須とし、原典確認をプロセスに組み込むこと。

ステートレス・プロセッシング・モデル：データ保持制約の「逆利用」



The Problem

Manusはアップロードされたファイルを48時間で自動削除する。証拠保全が命の知財業務では一見致命的。

The Insight

Manusを「データを保管する場所」ではなく、投入されたデータを高速処理し直後に揮発する「ステートレスな処理エンジン」として扱う。

The Solution

AIに一切の記憶を許さず、処理直後に自社DMSへデータを引き戻しハッシュ化する。これが最強の Safety by Design となる。

安全設計の5原則：機密性と証拠性の絶対的担保

1. 入力最小化 (Data Minimization)

核心技術や顧客名はマスキングし、要約・分類に必要な抽象情報のみを投入。

2. 共有リンク原則禁止 (No Public Links)

APIで `createShareableLink=false` をデフォルト化。外部共有は例外承認制。

5. オンプレ代替の切り分け (On-Prem Fallback)

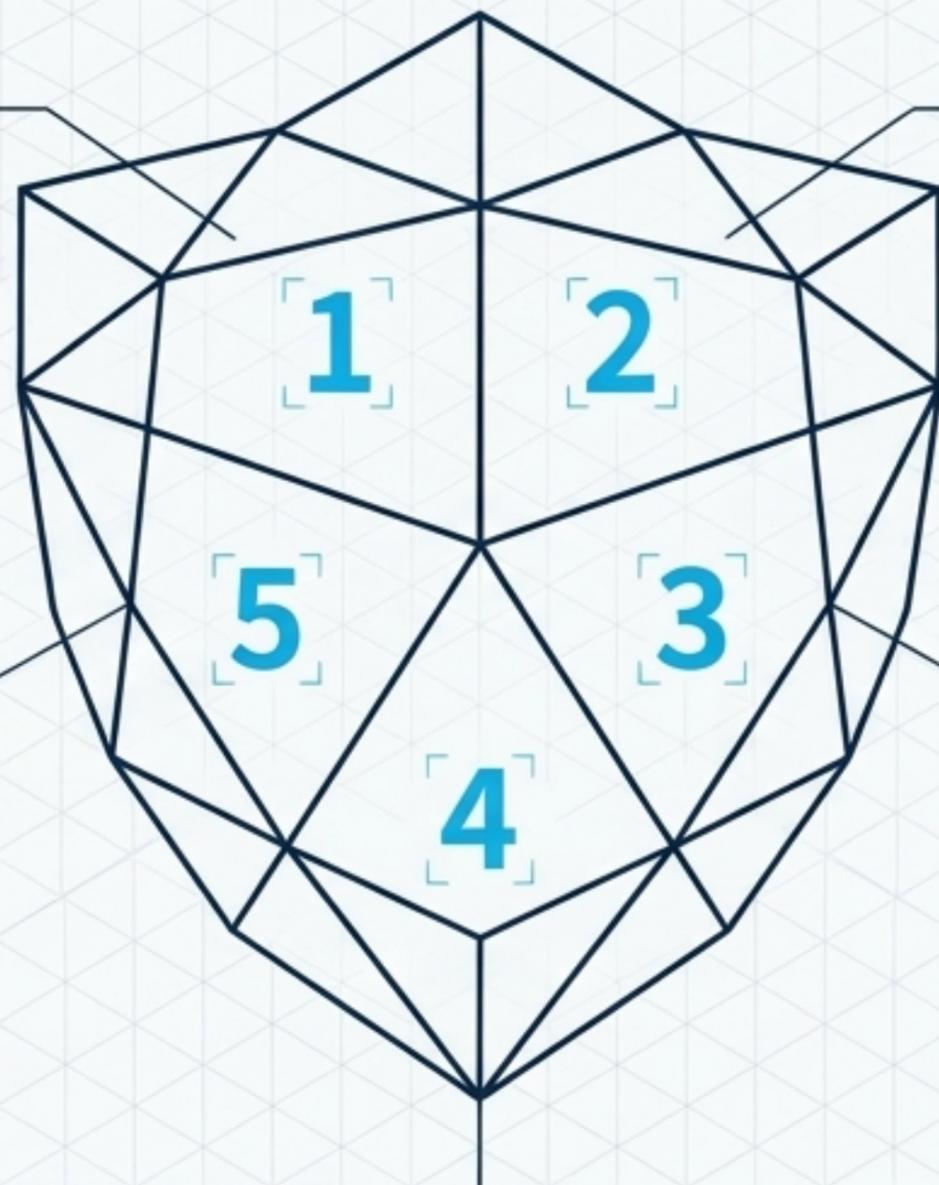
最高機密（未公開の営業秘密）は送信不可とし、クラウド非接続の代替手段へルーティング。

3. Team Owner権限の分離 (Privilege Separation)

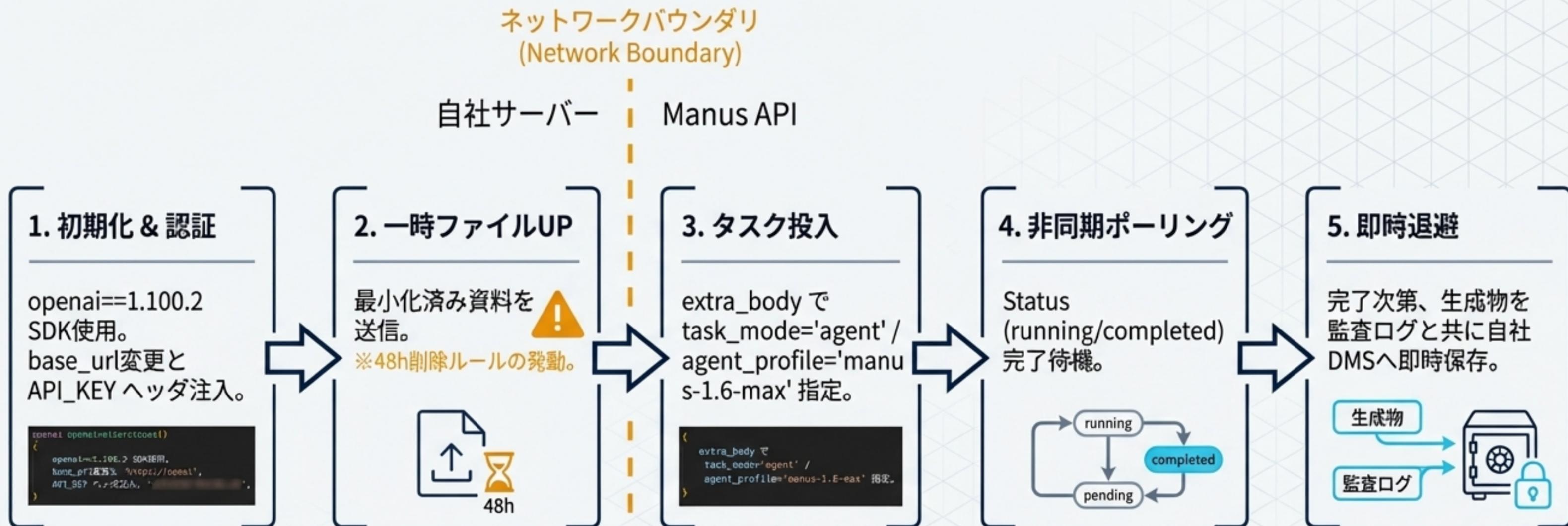
Ownerの全件閲覧リスクを防ぐため、権限を「情シス・法務」に限定し知財担当から分離。

4. 自律的証拠保全 (Evidentiary Preservation)

Enterprise Data Export API (requestId付与) と DMS退避を併用し、AI出力の根拠を自社で保全。



API統合の最小構成パイプライン (OpenAI互換SDK)



外部DBおよび内部システムとの連携アーキテクチャ

自動化レベル



パターンA (標準API連携)

[自社システム]
外部DBから検索結果を取得



[Manus]
テキスト/ファイルとして
投入・要約



[自社DMS]
監査ログと共に格納

汎用性が最も高い

自動化レベル



パターンB (MCP統合)

Custom MCP Serverを
自社実装



[Manus]
内部システムへ直接セ
キュアにOAuth/APIアクセス



自律的なデータ抽出と処理

高度な統合

自動化レベル



パターンC (手動+委任)

[専門家]
専用DBで手動検索



結果リストのみをManusに
渡し、比較・翻訳のみを委任



手動でファイルを退避

即時導入可能

包括的リスク対策マトリクス (Risk Mitigation Framework)

技術的対策 (システム) 

組織的対策 (人・ルール) 

誤情報
(ハルシネーション)

根拠ID必須のプロンプト・
テンプレート実装 

専門家による原典
二重チェックの義務化 

機密漏洩
(共有リンク)

createShareableLink=false
の強制設定、DLP連携 

例外共有の承認フロー、
インシデント対応手順 

権限濫用
(内部不正)

監査ログ、エクスポートAPI
による自動監視

Team Owner権限の職務分掌
(法務・情シスへの分離)

課金・ライセンス

APIコールごとの事前見積、
消費上限ハードリミット設定

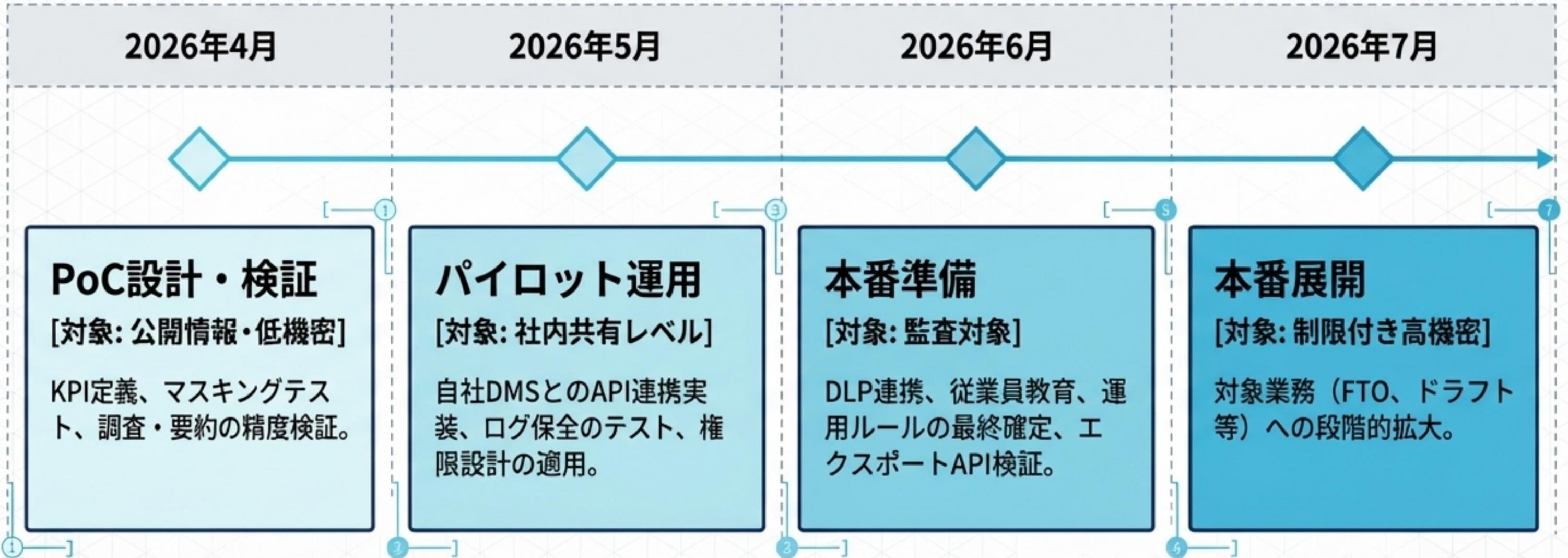
サブスクリプション月次予算化
(繰越なしルールへの理解)

投資対効果（ROI）と推定KPI改善インパクト



※これらは推定値。実稼働に向け、自社独自のゴールドセット（正解データ）を用いたPoCでのペースライン測定が必須。

実装タイムライン：PoCから段階的本番展開へ（2026 Roadmap）



コスト構造とライセンス・クレジット運用上の留意点

	コスト要素 (Cost Element)	概要と費用感 (Overview & Costs)
1	Proプラン	\$20/月 (4,000 credits) ~ \$40/月 (8,000 credits) ※Teamプラン詳細は要確認
2	Wide Research	サブタスク当たり最大50クレジット消費
3	開発・運用工数	API統合/DMS連携 (2-4人月)、教育・ 運用整備 (継続)



運用上の致命的リスク (Warning)

- **クレジット失効:** クレジットはサブスク期間内に使い切りであり、翌月への繰越なし。
- **消費リスク:** Wide Researchの多重起動や、システム不具合による意図せぬクレジット消耗のリスク (ユーザーレビューにて多数報告あり)。
- **対策:** タスクごとの予算上限設定 (ハードリミット) と厳密な月次消化計画が必須。

エグゼクティブ・チェックリスト (Go/No-Go Decision)

導入前 (Pre-Deployment)

- ・ 社内データの機密度分類（営業秘密三要件等）とManus投入可否ルールの定義。 **知財/法務**
- ・ 連携する自社特許DBの選定およびAPI連携仕様の確定（未指定事項の解消）。 **情シス**

導入時 (Implementation)

- ・ 「48時間削除制約」に対応する自社DMSへの即時退避パイプラインの構築。 **情シス**
- ・ 公開リンク（createShareableLink）の原則OFF設定と、Team Owner権限の分離。 **情シス/法務**

運用時 (Operations)

- ・ 出力テンプレートにおける「引用文献ID」の必須化と、専門家二重チェックの義務化。 **知財**
- ・ 誤公開検知～リンク無効化までのインシデント対応フローの策定。 **法務/情シス**

「AIの能力を最大限に引き出すのは、制限のない自由ではなく、完璧に設計されたガバナンス（Safety by Design）である。」